

## 視察報告

相庭 和彦

2017年11月11日から15日まで北京師範大学珠海校および北京師範大学附属南澳実験学校、北京師範大学附属惠州実験学校を訪問し、交流活動を行った。参加大学院生は13名、教員は7名であった。

スケジュールは以下のとおりである。11日6時30分に羽田空港に集合し、香港に向け出発。香港には13時に到着し、フェリーにて珠海市九洲港に渡り、16時北京師範大学珠海校に到着し、夜歓迎会が行われた。翌12日新潟大学教職大学院生と北京師範大学大学院生と研究交流会を行った。13日北京師範大学南澳実験小学校交流授業研究会、14日北京師範大学惠州実験学校で交流授業研究会をおこなった。15日朝惠州のホテルを出発し香港空港から帰国した。

交流内容は以下のとおりである。まず12日新潟大学と北京師範大学大学院学生の交流会について。新潟大学側からは教職大学院生が3名自分の研究課題を報告した。報告内容は教職大学院で行っている課題研究にもとづいてパワーポイントを準備し行われた。報告時間は30分である。北京師範大学側からは修士論文に向け研究している内容が報告された。新潟大学の報告は、教育実践の現場に即して行われたため、内容が理解しやすく、中国側から高い評価をえた。中国側の報告は、2学年の研究報告は日本側院生からも評価された。ただまだ修士課程に入って間もない院生の報告もあり、北京師範大学の教員から指導を含めた意見も出された。総体としては大変有意義な研究交流であり、報告しなかった院生からは来年度は報告したいなどの意見も聞かれた。

授業交流については3人の院生が2つのグループを作り、体育系の授業とグループ討議を中心とする授業を惠州実験学校と南澳実験学校で展開した。子供たちの授業への参加態度は大変良く、両校の授業とも多くの教員が参加して大変盛況であった。特にグループワークを中心とした授業の展開中子供たちの積極的な取り組みがなされていることに、机間巡視をした院生たちから「日本の子供と何ら変わることはない子供の様子」を学習できたとの感想が聞かれた。また体育の授業を指導した院生からは中国の子供の積極性をみとることができたという感想が聞かれた。授業終了後の検討会も多数の参加者をえて、参加者が持っている授業論や教育論、授業論など幅広い意見が出された。

惠州実験学校と南澳実験学校の両学校での授業の後、交流会が行なわれた。お互い意見交換をした教員同士の交流会であったため、子供や文化・教育に関する忌憚のない意見が出され、国境を越えた教育交流がなされた。